令和元年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 令和元年11月11日(月) 午後3時から 場 所 徳島県庁 10階 特別大会議室

- 1 開 会
- 2 議事
 - (1) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について
 - (2) 各県立病院の取組状況について
 - 中央病院
 - 三好病院
 - 海部病院
 - (3) 意見交換
- 3 閉 会

【配付資料】

- ・資料1 徳島県病院事業経営計画の取組状況
- ・資料2 徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について
- ・資料3 各県立病院の取組状況について

徳島県病院事業 経営計画の取組状況

令和元年11月11日 県立病院を良くする会資料

「グループ力の強化」に向けた取組

広域的な救急医療提供体制の整備 (資料2 p2, 6)



◆「ドクターヘリ」の運行

「助かる命を助けるべく」 県内のみならず「関西広域連合管内」をはじめ, 県域を越えて運行 平成24年10月~

・平成30年度の出動件数

469件

・H24.10~H31.3末までの出動件数

2,748件(1日平均約1,2件)

◆「ホスピタルカー」の導入

医師等の医療スタッフが同乗し, より安全・確実に患者の病院間搬送を行うため, 平成29年10月から導入

· 平成30年度実績

57件(迎え搬送1件,送り搬送56件)



医師の「確保」と「育成」 (資料2 p2)

◆臨床研修指導医の養成

高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成し, 次の世代の研修医を育てる医師育成サイクルを構築

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	備考
臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	100名	120名	中央病院: 82名三好病院: 14名海部病院: 4名





臨床研修の充実

(資料2 p2)

◆ 初期・後期臨床研修医の育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	備考
初期·後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	51名	55名	中央病院: 33名三好病院: 17名海部病院: 17名(病院間の重複あり)

◆ 新築移転した海部病院内に「地域医療研究センター」を充実整備

(地域医療を担う「若手医師」の育成拠点)

- 平成30年度には、徳島大学医学部(5年生)の学外臨床実習として 「約100名」を受入れ







スペシャリストの養成

(資料2

◆「専門・認定看護師」の計画的養成

令和元年5月現在の資格取得者数

・専門看護師 1名(がん看護)

· 認定看護師 27名 (14分野) *今年度4名 (3分野) が研修

* 救急看護、感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、集中ケア、糖尿病看護、がん化学療法看護、 がん性疼痛看護、がん放射線療法、小児救急看護、脳卒中リハビリテーション、摂食・嚥下障害、 認知症看護、精神科

医師・看護師等の「勤務環境」の改善

(資料2 p 3)

◆医師の負担軽減のため「医師事務作業補助者(医療秘書)」を充実

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	備考
医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	51名	50名	· 中央病院: 33名 · 三好病院: 14名 · 海部病院: 4名

- ◆院内保育所 (中央病院 やまもも保育園) の運営
 - ・定員80名(うち徳大病院枠10名)
 - ・年中無休(夜間保育を実施)



危機管理への対応力の強化

(資料2 p 3)

- ◆徳島県災害医療訓練
 - ·県立病院が参加し, 令和元年9月1日実施
- ◆総合メディカルゾーン本部合同災害対策訓練
 - ・中央病院・徳島大学病院合同で 令和元年10月5日実施(380名参加)
 - ・大規模災害を想定した実動訓練の実施により, メディカルゾーンにおける災害時医療体制を検証



◆ DMATの育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	備考
DMAT数 【県立3病院全体】	7チーム	8チーム	10チーム	・ 中央病院: 4チーム ・ 三好病院: 2チーム ・ 海部病院: 2チーム

◆災害に備えたライフラインの確保

災害時における「水供給の多重化」と 平時における「水道料金の削減」を両立させるため、 三好病院において, 井水利用に係る施設整備を推進

ICT (情報通信技術) の活用 (資料2

p4)

◆県立3病院・病院総合情報システムの統一

・平成30年10月28日から 新システムの稼働開始

<システム導入のメリット>

3病院での統一した

「電子カルテシステム」の導入

→ 県立病院内の患者データを 共有することにより、応援診療等の 負担を軽減

数多くある検査システム等 周辺の部門システムの統一化

→ 参照時間の短縮



◆ 「阿波・あいネット」への参画 ~つなげよう みんなのカルテ~ 徳島大学病院が進める「阿波・あいネット」に積極的に参画

> →県下全域の参画医療機関等の間で 同意患者(H31.3.1現在 約26,000名) の患者情報の共有が実現!

医療器械等の共同購入の推進

(資料2 p4)

評価 : 努力

主要指標	H26年度	H30年度	R2年度
	(計画策定時)	実績値	目標値
医薬品の採用品目数	1,869	1,694品目	1,000
【県立3病院全体】	品目		品目以下
医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168	197品目	250品目

今後の取組

「3病院は3つで1つ」のもと、それぞれの品目毎に採用数と費用対効果等 を再検証し、「同種同効医薬品の統合」「診療材料の標準化」を推進する。

- ※平成30年度の県立3病院・徳島大学病院・鳴門病院との共同交渉効果
 - ・医薬品薬価ベースでの削減額 3億3,400万円
- ※平成30年度の中央病院・徳島大学病院との連携による651品目の 共同交渉効果
 - ・診療材料 年度換算で約596万円

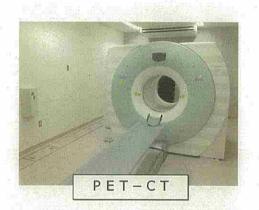
2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

高度先進医療・臨床研究の充実

(資料2 p5)

- ◆高度医療機器の整備による先進医療の提供
 - ・中央病院では、<u>リニアック</u>や<u>PET-CT</u>, <u>ダヴィンチ</u>による 高精度な治療や検査を推進
 - ・三好病院では、リニアックにより、質の高いがん治療を推進
 - 海部病院では、マルチスライスCTを導入





地域医療連携の充実

(資料2 p5~6)

◆紹介・逆紹介による連携の推進

中央病院では,

逆紹介率192% (紹介率86%)と, 全国トップクラスであり, 着実に地域の医療機関との 役割分担を推進

主要	指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値
	中央病院	80%	86%	90%
紹介率	三好病院	40%	49%	60%
	海部病院	(計画策定時) 実績値 息 86% 息 40% 息 49% 息 17% 息 139% 192% 1 息 97% 86% 1	40%	
	中央病院	139%	192%	180%
逆紹介率	三好病院	97%	86%	120%
	海部病院	33%	32%	40%

◆訪問看護・訪問診療の推進

海部病院では,

平成21年度から訪問診療・訪問看護を実施

· 平成30年度実績

訪問診療 319件訪問看護 888件



地域医療連携のさらなる充実に向けた新たな取組 (資料2

(資料2 p6)

◆平成30年7月

海部病院・海部郡医師会・県看護協会との連携による

「海部郡における在宅療養連携推進協定」締結

→ 地域のかかりつけ医の「訪問診療」 訪問看護ステーションの「訪問看護」 の「緊急時の対応」を, 海部病院がバックアップ



◆平成30年9月

海部病院において,地域のかかりつけ医と連携し, 診療報酬施設基準「在宅療養支援病院」届出

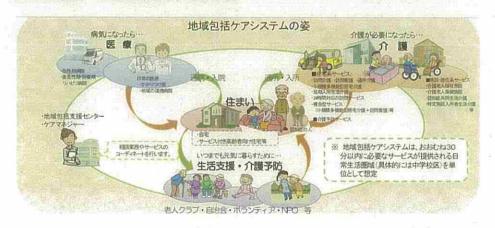
- → 「地域包括ケア」の実現に向け, 地域医療機関と一体となった緊急時の24時間往診体制の確立
- ◆平成31年4月 中央病院の「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」指定
 - → 地域のがん医療圏内において, 高い診療機能を有する医療機関1カ所を 「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」として国が指定

(資料2 p6)

◆令和元年7月

急性期医療を経過した患者の受入や,在宅復帰支援を推進するため,海部病院の4階病棟(52床)による「地域包括ケア病棟」開始

- → 急性期病院からの転院先として, 患者やその家族の負担軽減につなげる
- → 病状に応じた適切なリハビリテーションを実施し、 在宅復帰・生活復帰を支援



厚生労働省HPより

精神科医療ニーズの高まりに対する対応

(資料2 p7)

◆三好病院「院内デイケアさぎそう」開設

平成28年6月開設

· 平成30年度実績

100回開催 延べ391人が参加

●参加対象 認知機能障がいやせん妄があり, 参加について主治医の許可がある患者など

■実施日時

毎週水・金曜日 14時から15時30分

活動内容

認知機能訓練:お手玉,ぬりえ,

ちぎり絵, 押し花等

身体機能訓練:輪投げ、ボール投げ

風船バレー,体操等



(資料2 p7)

◆三好病院「オレンジカフェ」の開催

みよし地域包括支援センターと共催実施

※認知症の方やご家族,支援者が参加し,お茶を飲みながら, 気軽に体験談や悩みを打ち明けるもの

· 平成 3 0 年度実績 1 0 回開催

◆中央病院精神科病棟の機能向上に向けた改修工事

精神疾患と身体疾患の合併症について,

夜間の急変等へ対応するため,

合併症患者の病室を

スタッフステーションの近くに 移設するなど,

精神科病棟の改修工事を実施。



開かれた病院への取組

(資料2 p7)

◆住民に支えられた病院としての取組 病院主催イベント等への住民参加やボランティアの受入

ø	平成30	年度実績	(ボランティ:	ア登録者数はト	l31.4現在)
	中央病院	□がん対	策センタ-	一公開講座	2回開催

□オープンホスピタル **H30.10.27開催** (高校生が病院の仕事を見学・体験)

□ボランティア登録者数 14名

(外来患者の案内, 患者図書室の業務支援等)



三好病院	□市民公開講座	1回開催				
	□「三好病院を応	援する会」	との意見交	E 換会	H30.7	.30開催
5.	□経営戦略会議	地元市町,	公立病院,	保健所	関係者	の参加
	□生き活き講座					
		+B/1"	****			- \ min \

(地域住民の要望に応じ、希望するテーマの講師を派遣) □ボランティア登録者・団体数 20 (個人14,団体6)

(清掃, 植木の剪定, 病院行事の手伝い等)

海部病院 □経営戦略会議 地域住民との意見交換会 H30.7.26開催

□海部郡在宅医療・訪問看護推進フォーラム H30.8.11開催

□ボランティア登録者数 31名 (草抜き,植木の剪定等)

3 「医療の質の向上」に向けた取組

チーム医療の推進

(資料2 p8)

◆高い専門性を有する「診療チーム」による的確な医療の提供

- 求められる医療需要に、的確かつ迅速に対応するため、 「緩和ケアチーム」「糖尿病チーム」「口腔ケアチーム」など 多職種による, チーム医療を推進
- チーム連携により、回復力・予防力の向上に貢献する 薬剤管理指導を実施

主要	指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	備考
薬剤管理指導件数	中央病院	11,961件	14,448件	16,000件	N 80 TO
	三好病院	3,841件	2,727件	4,000件	
	海部病院	1,905件	2,395件	1,900件	

快適な病院利用環境の整備

(資料2 p10)

- ◆「総合メディカルゾーン構想」の推進
 - ・急性期の中核病院である「県立中央病院」と 教育・研究や高度医療の提供を行う特定機能病院である 「徳島大学病院」が隣接しているという地理的条件を活かし 「医療や情報・教育」の拠点化を図るもの。
 - 駐車場の共同利用
 - ・駐車料金の統一化
 - ・病院敷地内へのバス乗り入れ
- → 来院者の利便性がさらに向上



4「経営の効率化」に向けた取組

急性期医療の重点化

(資料2 p11)

◆入院者数, 日数の適正管理

急性期医療の重点化を図るため, **適正な平均在院日数と** 病床利用率の管理に取り組むとともに, 新規入院患者の受け入れを促進する。

主要	長指標	H26年度 (計画策定時)	H30年度 実績値	R2年度 目標値	説明
平均在院	中央病院	9.7日	9.9日	9.6日	精神病床を除く
日数	三好病院	16.1日	15.9日	13.5日	緩和ケア病床を除く
1日平均	中央病院	30.9名	31.1名	33名	精神病床を除く
新規入院 患者数	三好病院	8.2名	9.2名	10名	緩和ケア病床を除く

後発医薬品の採用 (資料2

◆県立3病院で使用する後発医薬品の数量シェア

県立3病院では、後発医薬品の数量シェアが、 国が示す「令和2年9月までに80%以上」の目標を既に達成。

·平成30年度実績

中央病院 89.3% 三好病院 87.0% 海部病院 92.6%

◆外来処方における新たな取組

県内有数の外来処方数料を誇る県立病院として, 調剤薬局における処方数量の増加に向け,

「薬品名」ではなく,「成分名」で処方を行う 「一般名処方」を,

平成24年4月から実施している海部病院に続き, 平成29年11月から中央病院で, 平成29年12月から三好病院で実施

· 平成 3 1 年 3 月現在 一般名処方品目数

中央病院 129品目

三好病院 81品目

海部病院 60品目



徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について

1 進捗状況

	平	成30年度の進捗状況	兄
施策数	 達 成 ◎	順調	努力 △
(再掲を除く)			カ カカム
3 2 件	5件(15.6%)	26件(81.3%)	1件(3.1%)

自己評価基準

・【達成:◎(取組目標を達成)】

・【順調:○(令和2年度に取組目標を達成できる状況)】 ・【努力:△(令和2年度の目標達成には努力が必要)】

「経営基盤の強化策」の自己評価一覧

1 「グループカの強化」に向けた取組			
(1) 広域的な救急医療支援体制の整備	¦⊚¦p. 2	(5) 医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	;⊚;p. 3
(2) 医師の確保と指導医・専門医の養成	O p. 2	(6) 危機管理への対応力の強化	D. 3
(3) 臨床研修の充実	() p. 2	(7) I C T (情報通信技術) の活用	© p. 4
(4) スペシャリストの養成	O p. 3	(8) 医療器械等の共同購入の推進	D. 4
—			
2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組			
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	O p. 5	(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	:○:p. 6
(2) 地域医療連携の充実	O p. 5	(6) 精神科医療ニーズの高まりに対する対応	O p. 7
(3) ホスピタルカーの運行	© p. 6	(7) 住民に開かれた病院運営	O p. 7
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	O p. 6		
3 「医療の質の向上」に向けた取組			
3 「医療の質の向上」に向けた取組 (1) チーム医療の推進	; ; p. 8	(5) 忠孝・隣号の法皇帝の古し	1012
(2) 病院機能評価の継続受審	O p. 8 O p. 8	(5)患者・職員の満足度の向上 (6)患者さんの信頼を得る医療の推進	O p. 9
(3) 医療安全対策の推進	O p. 8	(7) 広報活動の充実	Op. 9
(4)院内感染対策の推進	() p. 8	(8) 快適な病院利用環境の整備	O p. 10
(1) MI JUNANIA PIECE	, <u>O</u> , p. <u>0</u>	(0) 次連歩が設けがける未分しく 金浦	; <u>()</u> ; p. 10
4 「経営の効率化」に向けた取組			
・収入確保の強化			•
(1) 急性期医療の重点化	¦⊝¦p. 11	(4) 未収金の発生防止と回収促進	10 p. 12
(2) DPC分析による経営戦略の策定	O p. 11	(5) 医師の確保と指導医・専門医の育成(再掲)	— р. 2
(3)診療報酬制度への戦略的な取組	¦⊜¦p. 12		
/77 ## 1/01 \P. 0. 744 /1 . 1 . ±1 . ±= /1 . 0. 1/1/44			
・経費削減の強化と効率化の推進	16.12		
(1) 後発医薬品の採用	¦©¦p. 13	(4) 医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化	(O:p. 13
(2) 医療器械等の共同購入の推進(再掲)	— p. 4	(5) 事務部門のスリム化と強化	O p. 14
(3) 効率的な委託業務の推進	O p. 13	(6) 病院資産の有効活用	;○;p. 14

各施策の自己評価一覧表

1「グループカの強化」に向けた取組

#	経営計画の概要 [平成30年	度実績値の()	書きは、平成	29年度からの	計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(1)	広域的な救急医療支援体制・ドクターヘリ、ホスピタ				・ドクターへリ(H26年度:414件、H30年度:469件、13.2%増加)、ホスピタルカー(平成29年7月より運行開始し、H30年度:57件)の体制整備が整った。	達成	
(2)	医師の確保と指導医・専門・県立病院間での効果的な、・地域枠医師の積極的な受(・中央診療部門医師(麻酔・新たな専門医制度への対)	人材活用(医 ナ入れ 科医・放射線				・臨床研修の質の向上のため、指導医養成講習会に参加し、平成30年度に、新たに6名が臨床研修指導医資格を取得した。 (中央病院4名、三好病院2名) ・臨床研修指導医数(中央病院82名、三好病院14名、海部病院4名)	(回) 順調
,	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	・「中央診療部門」の医師養成として、平成29年4月から、 徳島大学・寄附講座「麻酔科診療部」を新設した。(中央病 - 院・全身麻酔手術(H30年度)3,009件)	
,	○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	102名	100名 (△2名)	120名	DE ENMART IN CHOOTING OF COULT	
(3)	臨床研修の充実 ・特色ある後期研修の実施 ・海部病院の「地域医療研究	究センター」	の整備		・臨床研修病院として、臨床研修医を51名受け入れて、臨床研修の充実を図った。 ・平成30年4月開始の「新専門医制度(19診療科)」への対応状況 「新専門医プログラム」 中央病院:17診療科(基幹施設・連携施設) 三好病院:13診療科(連携施設)	0	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	海部病院: 5診療科(基幹施設・連携施設) ・海部病院は、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた	順調
	○初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	55名	51名 (△4名)	55名	- 「地域医療研究センター」の整備を行った。 (徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部 5 年生 が実習を実施。H30年度:約100名)	

Ŕ	圣営計画の概要 [平成30年	度実績値の()	書きは、平成	29年度からの	増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	スペシャリストの養成 ・高度化、専門化する医療/ ・高度な専門的知識、技能、 ・看護職確保への取り組みる	資格の取得	けた研修の と組織内共)実施 : 有	・医師を国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を 修得させた。(H30年度:海外4名)		
(4)	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	- 専門看護師育成(令和元年5月時点の資格取得者数:1名) - 認定看護師育成(令和元年5月時点の資格取得者数:27名。	0
(4)	〇高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】	4名	15名	20名 (5名)	14名	4名研修中)	順調
	○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	17名	25名	29名 (4名)	35名	・学会、研修会に参加した医療職員や認定看護師等による院内 報告会・研修会を通じて、知識・技術の共有を図り、医療現場の 質の向上に努めた。	
ļ	○看護学生実習指導者数 (看護協会実習指導者講習会 修了者数)【中央病院】	24名	25名	26名 (1名)	34名	一員の円上に劣めた。	
(5)	医師,看護師等の勤務環境の ・医師事務作業補助者等の第 ・院内保育所を運営等、働き	か果的な配置 きやすい職場	環境の整備	, 	・県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担 軽減を図るため、事務補助者(医師事務作業補助者等)47名に ついて、効果的な配置を行った。 (中央病院33名、三好病院14名、海部病院4名)	©	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	・中央病院の院内保育所(定員80名(内徳大10名))は、原則 年中無休で運営しており、病児保育への対応や夜間保育、半日	達成
	〇医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	51名	51名	50名	保育、臨時保育も実施している。	
(6)	危機管理への対応力の強化 ・災害発生時の患者受入れゆ ・災害対応訓練の実施等、対 ・DMATの育成、災害用優・災害対策マニュアル、B(対応能力の強 ■療資機材等	の整備	体制の構築	<u>.</u>	・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者 受入訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施し、災害時に 備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応 できるよう、総合メディカルゾーン基本構想に基づく徳島大学 病院と初となる合同実働訓練や市町村、自衛隊等関係機関との 連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。 ・DMATとして必要な知識を有する専門職員を養成し、災害 拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担 えるよう、専門職員の養成に努めた。	(調)
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	(中央病院4チーム、三好病院2チーム、海部病院2チーム)	
	○ D M A T (災害派遣医療 チーム)数 【県立 3 病院全体】	7チーム	8チーム	8チーム	10チーム	・災害用備蓄食料については、県立3病院による共同購入を実 施し、計画的な整備に努めた。	

					-4	- -	
	経営計画の概要 [平成30年	度実績値の()	書きは、平成	29年度からの	増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	ICT(情報通信技術)の ・3病院での電子カルテシス ・地域医療ネットワークの3	ステムの統一	による診療	逐連携		・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、「病院総合情報システム」の導入を進め、平成30年10月28日から新システムが本格稼働した。	
(7)	・ICT技術を活用した新力	たな取り組み	の展開		・海部病院において、山間部等の救急搬送患者の状況を遠隔地 医師が迅速に把握可能な「海部病院遠隔診療支援システム(K サポートシステム)」を運用した。	0	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	・県南部の海部・那賀地域の公立病院が一体となって取り組む 「海部・那賀モデル」の一環として、H29年度に海部病院と上那 賀・美波・海南の町立3病院を結ぶテレビ会議システムを導入 した。	達成
	○県立3病院の医療情報システムの統一	_	_	· _	※平成30 年度	・遠隔読影については、医師不足による医師の負担軽減と医療の質の向上を目的として、H18年6月1日より、医師により県立3病院間で実施している。	
	医療器械等の共同購入の推送 ・医薬品、医療材料等の共同	_	による購入	、費用の低減		・医薬品について、3病院の共同購入によるスケールメリット による費用の削減を図った。 (H30削減額 薬価ベース 約3億3,400万円)	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	・医薬品、診療材料の標準化を進めるため、平成29年度には、	
(8)	○医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869品目	1, 740品目	1,694品目 (△46品目)	1,000品目 以下 ※H30年度	3病院の物品管理システムの「ネットワーク化」や「マスタ統一」など、統一的な運用を開始した。	努力
	○医療材料の共同購入品 目数 【県立3病院全体】	168品目	193品目	197品目 (4品目)	250品目	・診療等に影響を及ぼすことがないよう慎重に対応しながら、 経費削減に向けた規格統一を図り、目標値の達成に向けて取り 組む。	

2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

*	圣営計画の概要 [平成29年	度実績値の ()	書きは、平成	成28年度からの)增減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	高度先進医療・臨床研究 ・高度医療機器の整備に	•	療の提供		·	・中央病院においては、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。 【内視鏡下手術支援ロボット:89件、MRI(単純MR:4,773件、造影MR:1,120件)、PET-CT:1,128件、256列CT・単純CT:18,500件、造影CT:5,375件、冠状動脈造影CT:286件、リニアック(放射線治療装置):2台4,656件(うち高精度放射線治療616件)】	
(1)						・三好病院においては、がん治療:手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。 【MRI(単純MR:2,781件、造影MR:191件)、単純CT:9,327件、造影CT:1,002件、リニアック:1,057件】	順調
						・海部病院においては、H29.5.8新病院開院からマルチスライスCT導入。 【単純CT:3,803件、造影CT:258件、MRI(単純MR:1,872件、造影MR:88件)、脳神経外科を中心に活用】	
	地域医療連携の充実						
	・地域医療機関との役割					・連携医として、中央病院520名、三好病院74名、海部病院19名を登録し、地域 医療連携を進めた。	
	・三好病院、海部病院に 療の推進	おける訪問	診療、訪	問看護等、	在宅医	・中央病院の患者支援センターでは、院内外の多職種(医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等)と連携し、入院前から退院まで一貫した患者し支援を行っている。	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	(紹介患者件数: 19,822件)	
(2)	〇紹介率 【中央病院】	79. 8%	87. 8%	85. 7% (△2. 1%)	90%	・三好病院では、地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市 立三野病院と3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施し、地域医療支援病院 として、地域の医療機関等の連携に努めた。	順調
	【三好病院】	40. 4%	51. 3%	49. 0% (△2. 3%)	60%	(紹介患者件数: 3, 403件)	가다 취약
	【海部病院】	28. 8%	16. 3%	16. 7% (0. 4%)	40%	・海部病院では、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化 を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」(319件)や「訪問看	
	○逆紹介率 【中央病院】	138. 8%	184. 8%	191. 6% (6. 8%)	180%	『護」(888件)などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてき │ │た。また、「海部・那賀モデル」を核とした地域の医療従事者向けの研修会を │	
	【三好病院】	96. 6%	89. 7%	86.0% (△3.7%)	120%	開催した。 (紹介患者件数:1,856件) 	
	【海部病院】	33. 1%	34.6%	32. 3% (△2. 3%)	40%		

á	径営計画の概要 【 平成29年度実績値の() 書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己
(3)	ホスピタルカーの運行 ・ホスピタルカーの配置、運用	・中央病院において、ホスピタルカーを、平成29年7月より運行開始し、救命率 の向上を図った。(H30年度:57件)	達成
(4)	地域に不足する機能への取組の検討 ・地域医療構想の実現に向けた取り組み	・三好病院は、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論を踏まえ、西部圏域で不足している回復期病床への一部病棟の転換について検討している。 ・海部病院は、医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看取りを開始し、令和元年7月からは、「地域包括ケア病棟」の運用を開始し、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、長く過ごしていただけるための取組を進めている。	順調
(5)	地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実 ・地域医療機関への情報発信、支援	・県立3病院ともに、県から「へき地医療拠点病院」として指定を受け、へき地診療所や医師の確保が困難な医療機関に対し、医師派遣による診療支援を行った。 (H30年度派遣実績、中央病院910回、三好病院48回、海部病院155回、3病院合計1,113回) ・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される感染制御チームが中心となり、地域医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを実施している。また、医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行っている。地域全体での感染対策のボトムアップを図った。	順調

7

ŧ	経営計画の概要 【平成29年度実績値の()書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	精神科医療ニーズの高まりに対する対応 ・せん妄や抑うつ、認知症患者等、精神科医療への対応	・中央病院では、昨年度から多職種(精神科医・精神科認定看護師・臨床心理士・精神保健福祉士)により編成した精神科リエゾンチームが、定期的なカンファレンスや病棟ラウンドを実施し、身体疾患に伴う精神症状の悪化や心理的問題、認知症ケア、せん妄等の患者に介入することにより、よりよい医療の提供とケアの充実に努めた。	
(6)		・三好病院では、高齢化に伴う認知症対策として、認知症対策チーム(オレンジチーム)による院内デイケアや院内ラウンド等を行い、高齢者や認知症患者に対し適切な医療や看護が提供できるよう取り組みを行った。 平成29年度からは、認知症オレンジカフェを、みよし地域包括支援センターと共同で行い、認知症の方や家族が経験者の話を聞いたり、悩みを打ち明けたりできる機会を設けた。(H30年度実績 10回開催 うち院内開催 3回)	順調
		・海部病院では、毎週月曜日と木曜日の午後、完全予約制で認知症外来を実施した。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	住民に開かれた病院運営 ・地域住民の病院経営への参加機会の設置 ・住民への公開講座、ボランティア参加の推進	・中央病院では、徳島ガン対策センター公開講座「あなたの家にかえろう」、 糖尿病とがんに関する県民公開講座を開催した。オープンホスピタルを開催 し、県内高校生が参加した。 病院ボランティアによる外来患者に対するホールでの案内や車椅子利用者の 介助、生花の飾り付けや植木の手入れ、病院図書室における図書の貸出等を 行った。(ボランティア登録者数14名)	
(7)		・三好病院では、地域住民の代表である「三好病院を応援する会」との意見交換会を開催し、関係者と意見交換を行い、病院運営の参考にした。市民公開講座を開催するとともに、地域の住民を対象とした三好病院出前講座「生き活き講座」を行い、地域に開かれた病院づくりに努めた。 地域の中学生を対象にしたオープンホスピタル、小学生・高校生による職場見学、こどもたちの参観日(こどもが親の職場を見学に来る)を開催し、医療現場への興味を深めることに寄与した。	順調
		病院ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り等を通して、患者が少しでも不安を解消し、安心して治療を受けられる環境を地域住民とともに醸成していくよう努めた。(ボランティア登録:個人14名、団体6団体)	
		・海部病院では、海部病院経営戦略会議に、地域住民によって設立された団体の代表者等の参加を継続して実施した。 海部高校への出前講座、糖尿病教室を開催した。病院敷地内の草抜や剪定など病院ボランティアを受け入れた。 (ボランティア登録者数31名)	

3 「医療の質の向上」に向けた取組

i	経営計画の概要	【平成29年度実	績値の()書きは	、平成28年度から	の増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	チーム医療の推済・多職種の医療に	_	チーム医療の	推進		・医師をリーダーとして多職種で構成される診療チームとして、NST (栄養サポートチーム)、褥瘡対策チーム、ICT(院内感染制御チーム)、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔	
	主要指標	計画策定時 H26年度	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	「ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなど多数のチームが活動しており、良質で安全 -な医療の提供に取り組んだ。	0
1)	○薬剤管理 指導件数 【中央病院】	11, 961件	13, 765件	14, 448件 (683件)	16, 000件	・各種チームは、病棟ラウンド・チームカンファレンスのほか、院内・	順調
	【三好病院】	3, 841件	3, 015件	2, 727件 (△288件)	4, 000件	院外に向けた研修会を行うなど、積極的に活動している。 チャン活動の 環トレス 特別宗教党のが人場名教室 スルコール	
	【海部病院】	1, 905件	2, 242件	2, 395件 (153件)	1, 900件	- ・チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、アルコール ミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。 	
2)	病院機能評価の記 ・機能評価の受		の把握と改善へ	への取り組みる	を推進	・3病院ともに、病院機能評価を受審し、認定を受け、認定期間中の確認として報告を行い、更なる改善に取り組み、医療の質の向上に努めた。今後も引き続き、効率的な運営を目指して業務改善等に取り組む。	順調
	医療安全対策の		ボニトロ 屋!	素安全対策の対	#-准	・県立病院で発生した医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。	
3)	・医療安全研修の		₩IСФ 9 (<u> </u> Д/	从文王 为宋 少 加	# <i>\</i>	・医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。また、ヒヤリ・ハット報告の重要性を繰り返し伝えた。	順調
					•	・医療事故想定訓練を開催し、具体的な事例を示しながら、チームワー クの重要性と予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。	
45	院内感染対策の ・院内感染対策で		して研修会や	ニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の実施	・ICT (医師、看護師、検査技師、薬剤師等)では、院内ラウンドや カンファレンスを行い、抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努め た。	0
(4)	・地域の医療機関					・新型インフルエンザ患者の入院に備え、感染症病床への受け入れ、搬送訓練、PPEの着脱訓練を行い患者発生時の体制設備の確認を行った。	順調

	経営計画の概要 【平成29年度実績値の() 書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	患者・職員の満足度の向上 ・総合相談の窓口における患者サポートの充実	・病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」 を見直し、平成27〜令和元年度までの新たな計画を策定している。引 き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努 めていく。	0
(5)	・患者満足度調査の現状分析・検証・改善の実施による、患者満足度の向上	・相談窓口は、患者さんからの病気、受診等に関する相談や質問、専門 部署への案内などを行い、患者さんの満足度の向上に努めている。	順調
	・働きやすい職場環境の整備	・毎年、患者満足度調査を実施し、調査結果については、全職員で情報 共有するとともに、職員を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を 図った。	
(6)	患者さんの信頼を得る医療の推進・インフォームドコンセントの取り組みを推進・セカンドオピニオン相談の周知・臨床指標の公表	・患者の治療に関わる情報を確実に説明し、同意を得る「インフォームドコンセント」について、誠意を持って説明に取り組んでいる。 ・「セカンドオピニオン外来」を開設して、がん又はその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 ・「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や患者さんに病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。	順調
(7)	広報活動の充実 ・病院ホームページの充実 ・地域医療機関への情報発信、広報活動の推進	・病院局、各県立病院のホームページにおいて、診療案内、各種指標等の積極的な情報提供を行い、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の新着情報についても掲載し、患者や医療関係者に情報発信を行った。 ・広報誌、各種パンフレットを発行し、関係機関や来院者に配布し、情報提供を積極的に行った。	順調

.

ィカルソーン構想外構工事について、平成31年2月2日に中央 徳島大学病院をつなぐメディカルストリートが開通し、記念式典	
た。 病院の駐車場について、徳島大学病院との共同利用、料金の統一るとともに、病院敷地内への路線バスの乗り入れが開始された。 病院の低層棟において、外壁改修工事や屋上防水工事を行い、施 寿命化を図り、快適な病院利用環境の整備に努めた。 病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に	(回調)
中央図 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	中央病院の駐車場について、徳島大学病院との共同利用、料金の統一 上図るとともに、病院敷地内への路線バスの乗り入れが開始された。 三好病院の低層棟において、外壁改修工事や屋上防水工事を行い、施 の長寿命化を図り、快適な病院利用環境の整備に努めた。 毎部病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始。また、立体駐車場 整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。

4 「経営の効率化」に向けた取組

;	経営計画の概要 [平成2	9年度実績値の	()書きは、	平成28年度から	の増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	急性期医療の重点化 ・適正な平均在院日数と・地域医療機関との連携・救命救急病床数の増加、	による新規	入院患者增加	加への取り組 句けた取り組	・中央病院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。 平成29年4月より外傷センターを設け、より専門性の高いプロフェッショナルによる救命向上に努めた。 外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を	-	
		計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値	↑推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間 + の割合が80%以上という目標に対し、平均在院日数の適正 な管理に努めた結果、目標を達成することができた。	0
(1)	│ ○平均在院日数 │ 【中央病院】 │	9. 7日	9. 7日	9.9日(0.2日)	9.6日	・三好病院は、急性期型病院としての機能の重点化を図る ため、平成28年3月から7:1入院基本料の施設基準を取	順調
	【三好病院】	16.1日	14.1日	15.9日 (1.8日)	13. 5日	得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の受け入れを図った。	
	○1日平均新規入院患者数 【中央病院】	30. 9名	30. 7名	31. 1名 (0. 4名)	33名	│ 今後、四国中央部の拠点として、急性期病院としての地 │ │域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規 │ │入院患者数の受け入れに取り組み、収益の増加を図ってい │	
	【三好病院】	8. 2名	9. 2名	9. 2名	10名	<.	
(2)	DPC分析による経営戦I・DPCデータを基にした	た経営分析、	他病院の	データとの比	・DPC対象病院として、診療情報管理、コーディング委員会を開催し、厚労省に提出しているDPCデータを用い、適宜分析を行うほか、DPC精度向上に取り組んでいる。	0	
	・外部コンサルタントの	活用				・平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、DPCデータを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上を図った。	順調

紀	と営計画の概要 【 平成29年度実績値の() 書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3)	診療報酬制度への戦略的な取組 ・診療報酬制度改定への迅速・的確な対応 ・診療報酬査定内容の分析、請求漏れの防止	・診療報酬検討会を開催し、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、請求漏れ、誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 ・令和2年4月の診療報酬改定に向け、情報収集を行い、新たな施設基準の取得などに取り組んでいる。	順調
(4)	未収金の発生防止と回収促進 ・医療費に関する支払相談の充実 ・未収金回収への積極的な取り組み	平成30年度の医業未収金(患者負担分)は、3病院の合計で2億7,119万5,154円あり、平成29年末未収金の2億5,875万8,208円より1,243万6,946円増加しているが、その中には、一時的に未収金とされるものが含まれているため、実質上の未収金額で比較すると、平成30年度末は2億394万6,462円となり、平成29年度末2億1,390万1,781円より995万5,319円減少している。 ・医事受託業者等との連携による未収金発生の抑制及び回収の促進、電話や戸別訪問による督促を実施した。・一定の要件を満たす場合の法的措置(支払い督促)実施した。・回収が困難となっているものについては、弁護士法人に回収を委託する。・個別債権の検討ワーキンググループを立ち上げ回収に向けた方策を調査検討した。	順調
(5)	医師の確保と育成(再掲)	_	_

å	経営計画の概要 [平成	29年度実績値の	() 書きは、	- 平成28年度から	の増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
	後発医薬品の採用		b				
	・後発医薬品の採用拡大	による患者は	負担の軽減、	費用の削減	Į.	・患者負担の軽減とともに費用の削減に繋がる後発医薬品	•
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R2年度 目標値]の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な拡]大に取り組んだ。	©
(1)	○後発医薬品割合 【中央病院】	68. 4%	85. 0%	89. 3% (4. 3%)	70% (H28年度)	・後発医薬品数量割合は、平成28年度末において、すべて の病院で「80%」を超えており計画目標を達成している	達成
	【三好病院】	63. 9%	85. 1%	87. 0% (1. 9%)	80%	が、引き続き各病院の薬事審議会を通じて採用医薬品について随時、後発医薬品への切り替えを進めていく。	
	【海部病院】	82. 2%	91. 2%	92. 6% (1. 4%)	(H30年度)		
(2)	医療器械等の共同購入の)推進(再掲)				_	_
	効率的な委託業務の推進 ・長期継続契約、一括契	_	責削減			・物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリット を活かし、病院局において、3病院を一括した契約を締結 した。	0
(3)						・警備、清掃業務で一般競争入札を実施し、長期継続契約 を締結した。また、検査・給食・医事などの各委託業務内 容の見直しについて検討し、効率化及び経費の節減に努め た。	順調
	医療情報システムの統一・電子カルテシステムの・総務事務に係る電子決	統一化による	- 5費用の低》	 或、		・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、「病院総合情報システム」の導入を進め、平成30年10月28日から新システムが本格稼働した。	(回)
						・総務事務システムの導入に向けて、関係課と協議検討を 行った。	

	-14-				
経営計画の概要 【平成29年度実績値の()書きは、平成28年度からの増減数】		計画達成に向けた取組の概要	自己 評価		
(5)	事務部門のスリム化と強化 ・病院組織の業務、体制の検討 ・専門性の高い職員の採用、育成	・各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当に リーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行うと ともに、医療情報職を平成29年4月から採用した。	順調		
(6)	病院資産の有効活用・医師公舎等の病院資産の有効活用	・平成29年2月に解体した中央病院の医師公舎跡地に、不足 する駐車場スペースを新たに整備し、有効活用によるサー ビスの向上を図った。	() 順調		

各県立病院の取組状況について

- 1 中央病院 ・・・p. 1~p.12
- 2 三好病院 ・・・p. 13~p. 22
- 3 海部病院 ・・・p. 23~p. 30

2025年~さらなる未来に向けて

県立病院を良くする会 徳島県立中央病院

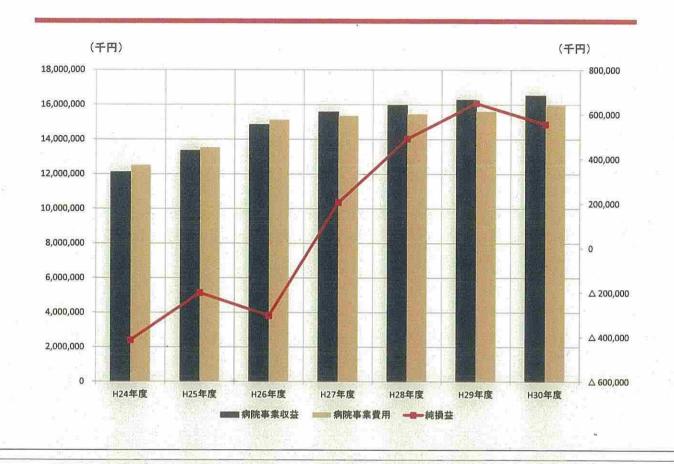
徳島県立中央病院が目指す方向

高い医療の質 維持・向上

- ·医療安全
- ·患者·職員満足度
- •国際水準医療

健全経営

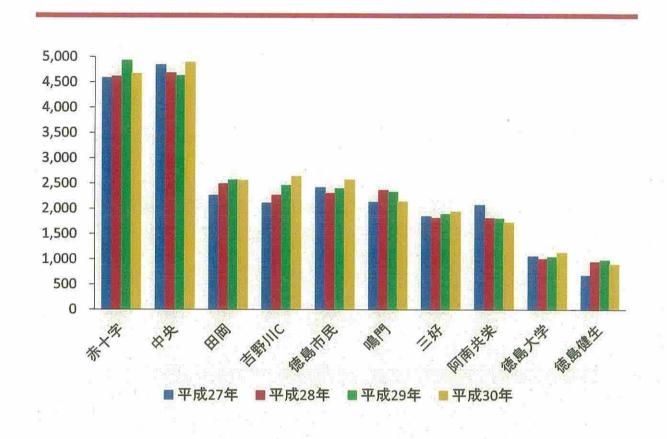
病院事業収支の推移



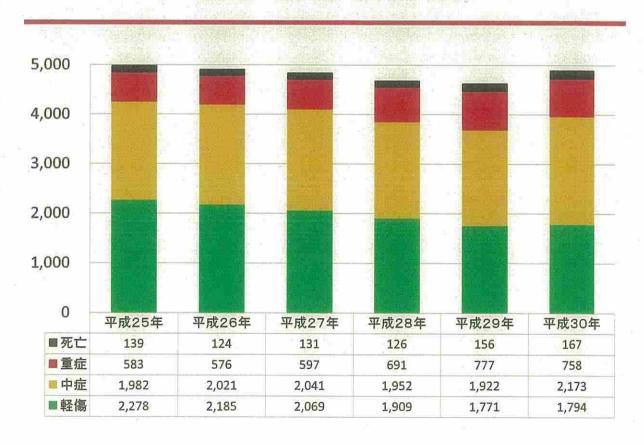
高度急性期病院として政策医療に特化

- •救急医療
- •小児救急•新生児集中治療
- •精神(合併症、救急、認知症)
- •癌
- •生活習慣(糖尿病•心血管•脳卒中)
- •災害医療

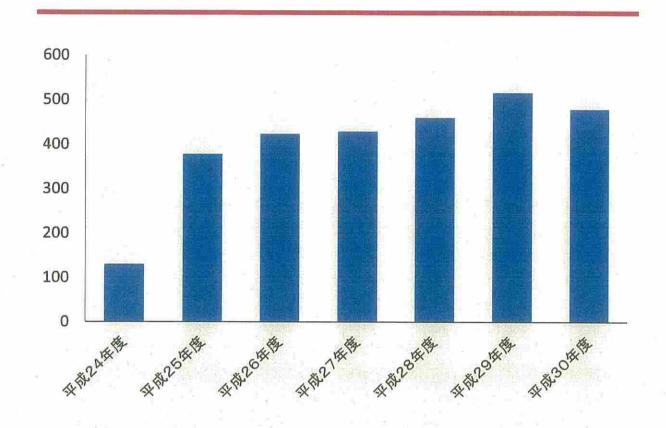
救急患者搬送件数



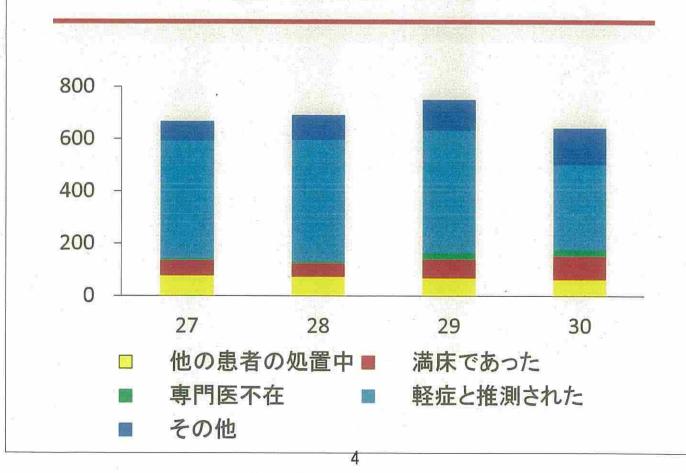
救急患者重症度







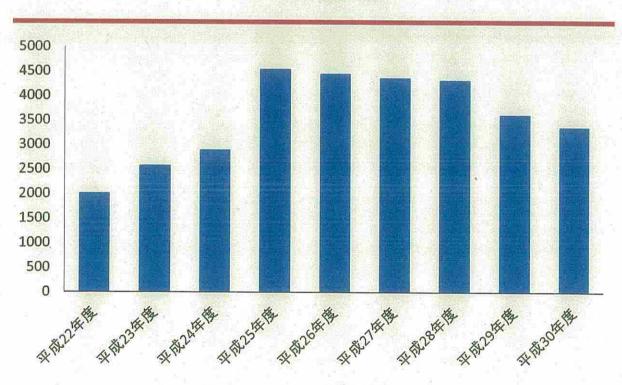




受け入れ不可ゼロ

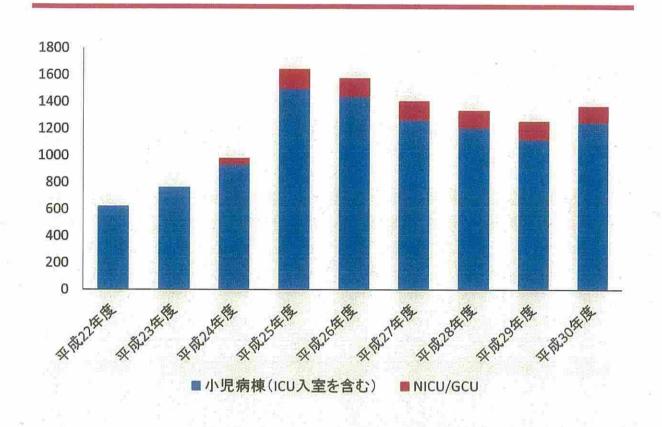
- •他患者の処置中、専門医不在
 - •マンパワー確保
 - •専門医の育成:
 - •本年救急専門医試験2人合格
 - 専攻医研修:一昨年1人、昨年1人
- 満床
 - ・救急患者用ベッド不足

小児医療

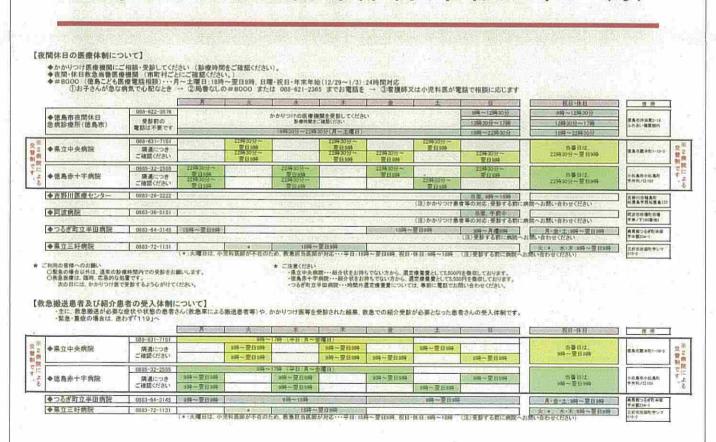


平成25年4月より小児救急の24時間体制開始 平成29年1月より小児患者の初診特別料金(選定療養費)を徴収開始

小児医療:入院患者数



徳島の小児救急医療体制(令和元年11月)



地域がん診療連携拠点病院(高度型)

- ・必須要件をすべて満たす
- •「望ましい」要件を複数満たす
- ・優れた取り組み(相談支援センター、緩和ケアなど)を実施している
- ・圏域内で診療実績が最も優れている-施設 を圏域内に1か所指定する

地域がん診療連携拠点病院(高度型)

都道府県名	医療機関名
埼玉県	埼玉医科大学国際医療センター
東京都	NTT東日本関東病院
東京都	帝京大学医学部附属病院
東京都	慶応義塾大学病院
東京都	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
富山県	富山大学附属病院
愛知県	藤田医科大学病院
大阪府	大阪市立総合医療センター
大阪府	大阪医科大学附属病院
兵庫県	姫路赤十字病院
和歌山県	日本赤十字社和歌山医療センター
島根県	松江市立病院
徳島県	徳島県立中央病院
佐賀県	地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館

さらなる県立中央病院の発展

- •職員の精神的・身体的健康管理
- 女性職員のハンディキャップへの 対応
- •院内救急への対応

職員の精神的・身体的健康管理

拡張期を捉えよう!

拡張期を捉えるには:恐れやフラストレーション、不安を処理するために一生懸命に働かねばなりません。そして、自分自身に自分の心臓が十分に拡張するための許可を与えましょう。

A drop in pressure. Relaxation. Expansion. And then, with a full heart, a gush of life.

医師の時間外労働規制

- 時間外労働の上限
 - ・(原則)1ヶ月45時間、1年360時間
 - 例外A: 診療従事勤務医に2024年以降に適用
 - 年960時間、月100時間
 - 例外B: 地域医療確保暫定特例水準(医療機関を特定)
 - 年1,860時間、月100時間
 - ・例外C: 一定の期間集中的に技能向上のための診療が 必要な場合(医療機関を特定)
 - 年1,860時間、月100時間
 - C-1:初期・後期研修医が研修プログラムに沿って基礎的な技能 や能力を習得する際に適応
 - C-2:医籍登録後の臨床従事6年目以降のものが、高度技能の育成が公益上必要な分野について、特定の医療機関で診療に従事する際に適応

医師の確保

- . 地域枠医師
- . 自治医大出身医師:面談を継続

自治医大出身医師との交流:昨年

- 上勝診療所
- 那賀町上那賀病院
- 木沢診療所
- 西祖谷診療所



自治医大出身医師との交流:今年

- 日野谷診療所
 - 三橋乃梨子先生
 - 廣島裕也先生
- 上那賀病院
 - 加納将嗣先生
 - 林宏樹先生
- 木頭診療所
 - 近藤健介先生
- 出羽島診療所



特に女性の職員

- 働く女性のハンディキャップ
- 男性と女性で差はあるのか
 - ・ 米国における男性の3大職種
 - Anchorperson
 - 有名大学の学長
 - 大統領
- ・ 家族に胸を張って「私は誇れる仕事をしている」と言えるようにしたい

失われたタウシグ達

- •専門家としてのタイトルで紹介されない
- •fund獲得費は少ない
- ・高齢患者の30日生存率は優れている
- •ガイドラインに沿った治療を行う率が高い

院内救急の充実

- •Rapid response systemの確立
 - •今年度rapid response team結成
 - ・10月には3回の発動あり

平成30年度取り組み状況 徳島県立三好病院



徳島県立三好病院 院長 住友 正幸



2019年11月11日 「県立病院を良くする会」 於 徳島県庁

西部圏域の人口推計





国立社会保障・人口問題研究所HPより作成(横佐古・住友)

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

2/19

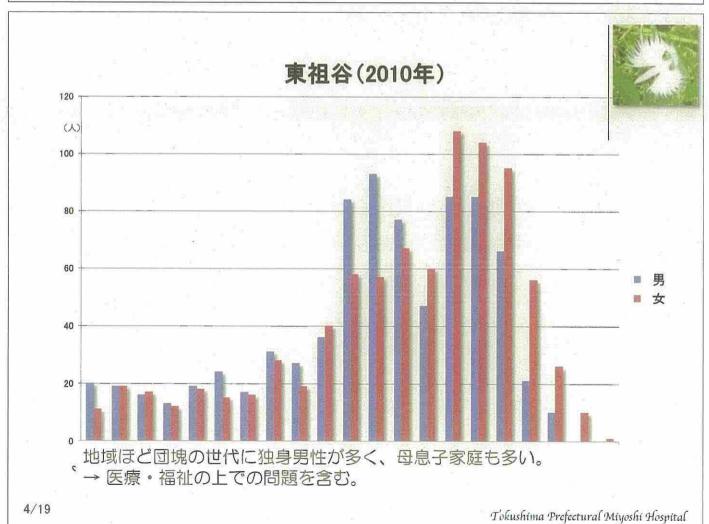
三好市推計人口

3/19



Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

						65歳以上	75歳以上
00 (A)					2015年	41.4%	25.9%
					2025年	48.3%	28.7%
00				<u> </u>	2035年	51.1%	35.8%
000	11 (N2)	<u> </u>	a i		Ist	Ř	= 2015年
00	+ 	## #		I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			■ 2025年 ■ 2035年
000	. 1						
00							6 (ec)
Or Alle	10-16 15-19 20-7h	100 30 34 35 39 40 A	AND SOUTH STORE	59 60 real 10-71	15-19 80-84 85-	som the	



三好病院の役割

- 「四国中央部の要」
 - 急性期医療
 - 「フルセットのがん医療」
 - 「平時から災害時までシームレスな救急医療」
 - 地域包括ケアの支持
 - 高齢者看護・在宅に向けた支援(リハ)
 - 人材育成
 - 臨床研修医: 1名
 - 認定看護師:14名
 - ・財務の健全化





Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

5/19

政策医療(5疾病5+1事業)

- がん、脳卒中、急性心筋梗塞 糖尿病:糖尿病外来による地域指導 精神疾患:認知症院内デイケア
- 救急医療、災害医療、へき地医療 周産期医療:婦人科を含めた集約化

小児医療:県西部での集約化 (周産期医療協議会)

在宅:訪問看護(診療)



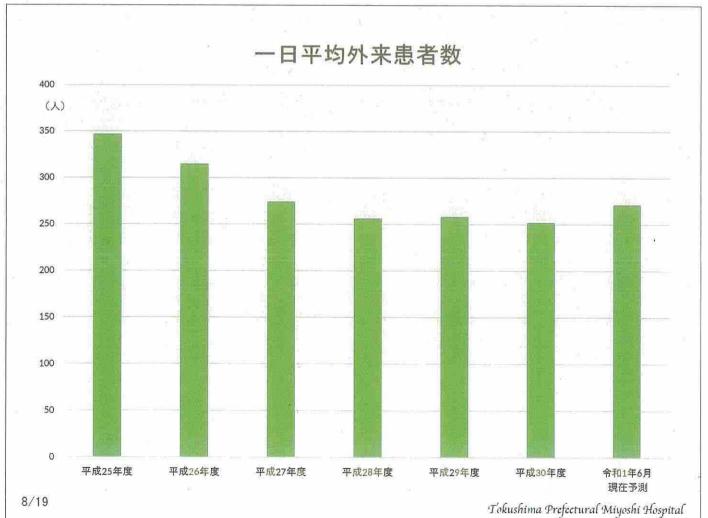
経営状況

(単位:千円)

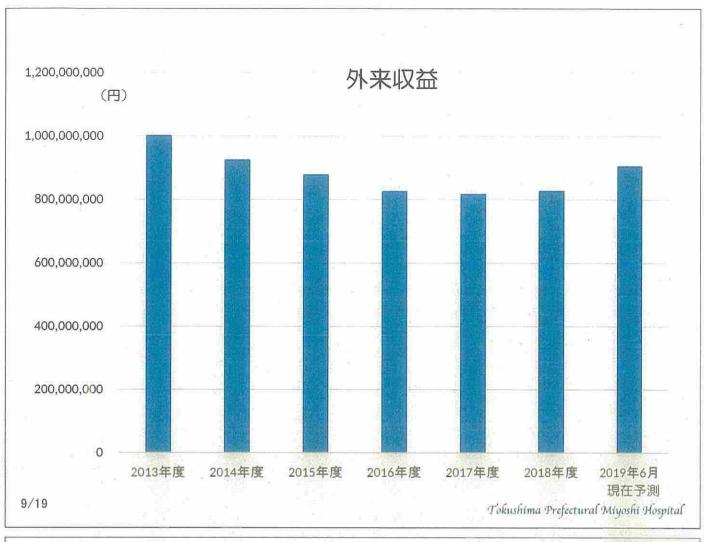
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
病院事業収益	4,350,365	4,332,612	4,550,182	4,606,957	4,654,409	4,671,249
病院事業費用	4,265,635	5,188,689	5,418,746	5,397,426	5,209,758	5,358,227
収支差	84,730	-856,077	-868,564	-790,469	-555,349	-686,978
内部習保金	1,970,779	983,845	208,621	-457,891	-924,984	-1,608,786

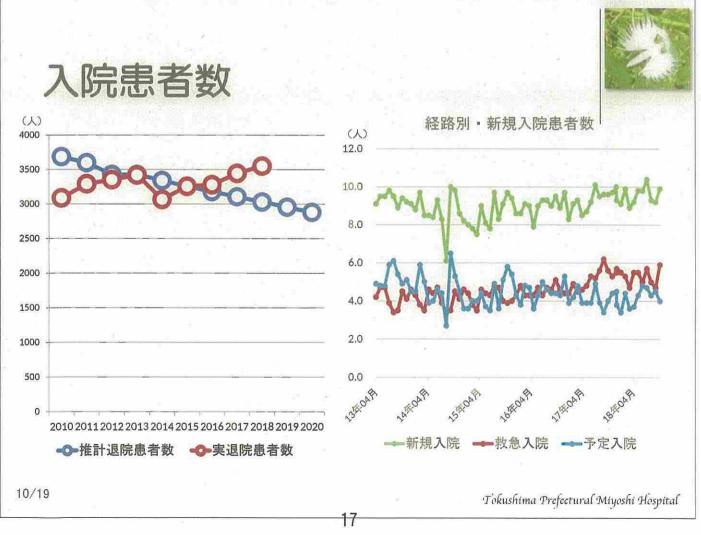






16

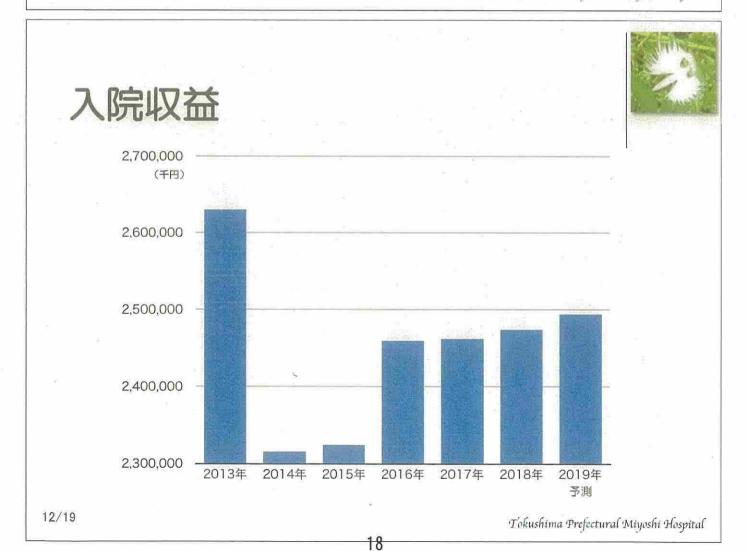




手術件数

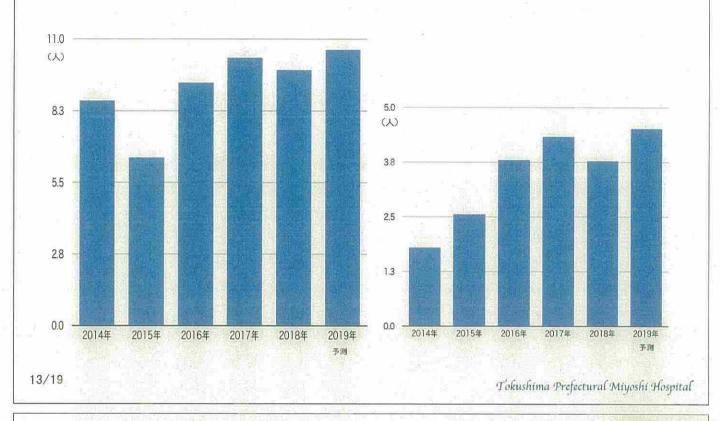






緩和ケア (1日平均入院患者数)

放射線治療 (1日平均治療患者数)



財務の健全化



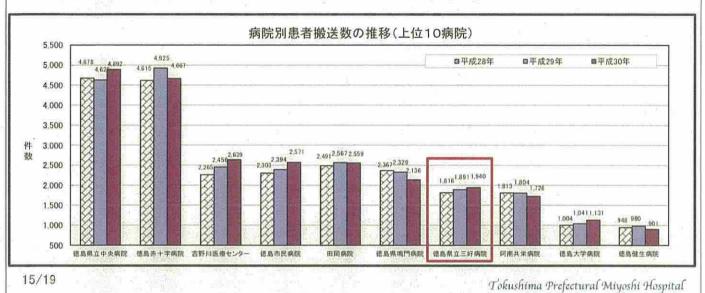
- ・収益の向上
 - ・病床運用の変更
 - 緩和病床利用の促進
 - 緩和ケア内科医確保
 - 地域啓発
 - 信頼の確保
- 支出の抑制

平成30年病院別患者搬送数(上位10病院)

病院名	平成28年	平成29年	平成30年	H30-H29
1 徳島県立中央病院	4,678	4,626	4,892	266
2 徳島赤十字病院	4,615	4,925	4,667	△ 258
3 吉野川医療センター	2,265	2,456	2,639	183
4 徳島市民病院	2,303	2,394	2,571	177
5 田岡病院	2,491	2,567	2,559	△ 8
6 徳島県鳴門病院	2,367	2,329	2,136	△ 193
7 德島県立三好病院	1,816	1,891	1,940	49
8 阿南共栄病院	1,813	1,804	1,726	△ 78
9 德島大学病院	1,004	1,041	1,131	90
10 徳島健生病院	948 .	980	901	Δ 79

断らない救急

救命救急センター



入院前サポート開始

~ 入院前から退院後の生活を見据えた関わりを

外来 入院決定



入院サポート

入院を予定している患者さんが入院生活 や入院後にどのような治療過程を得るの かイメージし、安心して入院医療を受け られるように看護師等がお話を伺い、説 明をさせて頂く場を設けた

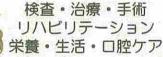
患者支援センター



- ・ 飲まれているお薬
- · 食事形態 · ADL
- ・歯の状態
- ・キーパーソン
- ·退院先
- 身障 介護認定
- ・ケアマネ
- 利用中のサービスなど

緊急入院







介護保険利用者ケアマネ-ジャー へ連絡・面談

ご家族等の面接

他職種カンファレンス



在宅

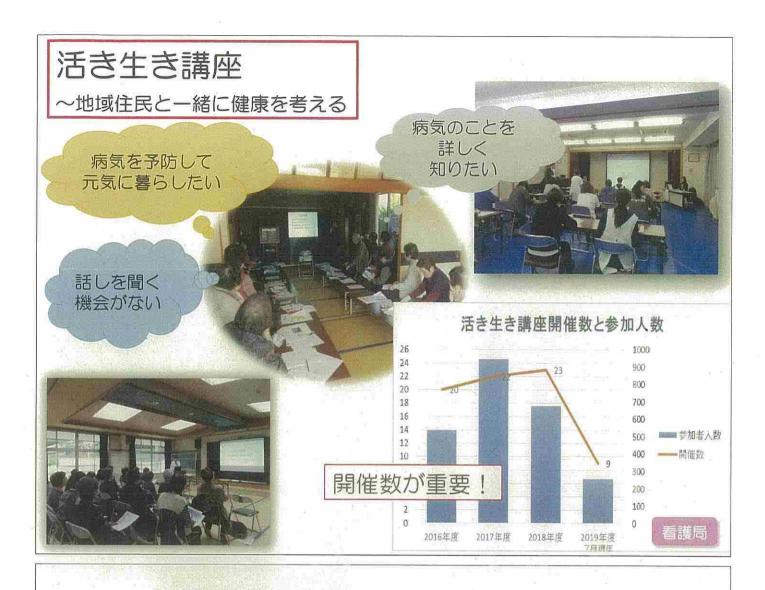
退院•転院

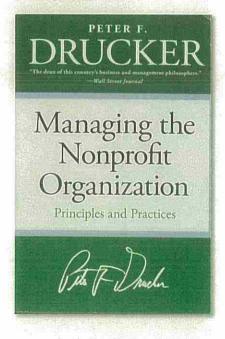
転院·老健

- ・かかりつけ医 情報提供
- ケアマネ・訪問看護師連絡
- 外来看護師への情報提供

転院先への情報提供 診療情報、看護情報 ADL(日常生活動作) 食事形態など ケアマネ、施設関係者、担当看護師、訪問看護師、社会福祉士等

看護局







公的機関に必要なのは "responsibility" 病院経営に重要なのは「心」

「やさしさ」で「強い」病院を創る!

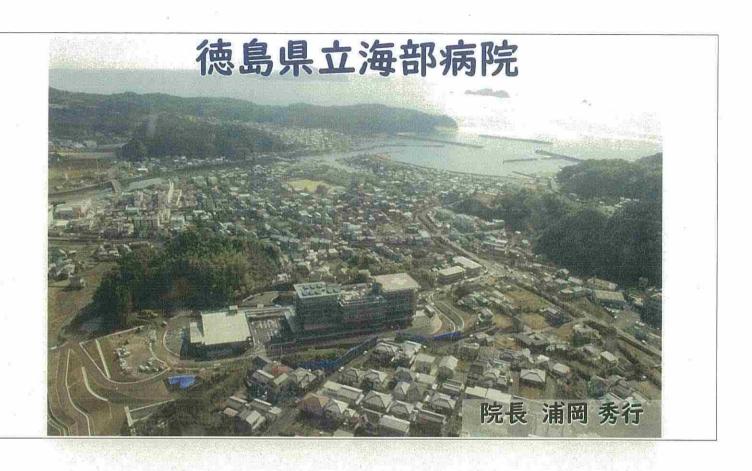
Take-home Message

- 平成30年度取り組み状況
 - 「がん」まだまだ途上
 - 「救急」「災害」は一定の実績
 - 地域(住民・医師会)の信頼が重要
 - 病床再編と緩和ケア病床の使用促進 地域医療構想(小児・周産期)が鍵

やさしいって いいね



Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital



海部病院の役割・機能

徳島県病院事業 経営計画

先端災害医療の拠点

- ・南海トラフの巨大地震を迎え撃つ 前線基地
- · 地域医療を担う総合診療医の 育成道場
- ·海部·那賀地域公立医療機関に 対する医師派遣の拠点



1 災害医療·救急医療

災害医療

新病院の設備(ハード)

- ・ツインへリポートを設置し、平常時と災害時に シームレスに医療提供
- ・太陽光発電、蓄電池、自家発電装置等を整備



災害への体制整備(ソフト)

- ·DMAT2チームを養成
- ・災害訓練を実施・参加



平成30年度大規模地震時 医療活動訓練(2018.8.4)



令和元年度德島県総合 防災訓練(2019,9,1)

救急医療

少人数の医療スタッフで、365日24時間対応 年間1,000台弱の救急車を受け入れ

平成30年度実績

- ·救急患者数 3,168名 うち入院 687名 うち外来 2,481名
- ·救急車搬送患者数 983名



海部消防組合

組合の搬送台数の62%組合の搬送患者数の66%

室戸市消防署東洋出張所 出張所の搬送台数の73% 出張所の搬送患者数の80%



23名15団体

令和元年度救急医療功労者の 厚生労働大臣表彰を受賞!

9月9日(月) 表彰式



2 総合診療医の育成道場

地域医療研究センター

徳島大学と徳島県が共同で、地域医療に貢献できる総合的な医療人材の育成を 目的に、地域密着型の拠点として、海部病院内に開設(平成19年10月)

新病院では、研修室・宿泊施設等の環境を整備

- ・徳島大学総合診療部と連携し、専攻医を受入れ 南阿波総合医・家庭医育成プログラム(H23開始) 南阿波総合診療専門医研修プログラム(H31開始)
- ・徳島大学医学部地域医療実習生 毎年約100名受入れ
- ・ 臨床研修医 平成30年度17名受入れ (県立中央病院・徳島大学病院等の協力型臨床研修病院) 新専門医制度 (平成30年4月開始)

[基幹施設:総合診療科

連携施設:総合診療科・内科・整形外科・脳神経外科・皮膚科

• 夏期地域医療研修 (8/22~24 医療政策課主催) 参加

課題 安定的な 指導医の確保 が急務!

3 海部・那賀モデル

- ●医師の応援診療
 - 上那賀町、美波町、海南病院、日和佐診療所への応援診療
- ●ICTの活用によるネットワーク構築
 - ・海部・那賀地域遠隔診療支援システム(k-support) による診療支援・救急対応 ※
 - ・地域医療連携システム (Human Bridge) による医療連携
 - ・テレビ会議システムによる症例検討や研修会の実施
- ●研修会の開催

(看護師、リハビリ等)

- ●交流研修の実施 (看護師等)
- ●診療材料の共同交渉 (16品目)
- ●上那賀病院への看護師の応援 (平成31年4月~)



※(平成31年2月26日放送)
シリーズ「命の現場」が危ない①働きすぎ・・・医師を救え!
において、 'k-support' の取組みが紹介されました

4 在宅医療の推進

訪問看護



〔平成21年度開始〕

訪問診療



〔平成22年度開始〕

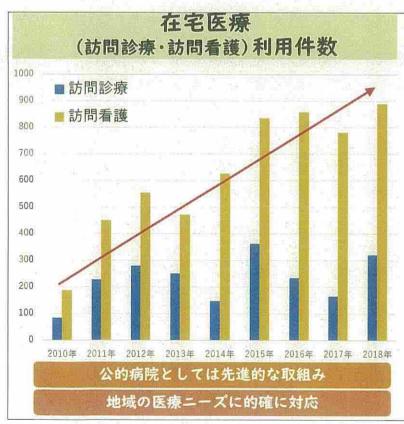
訪問リハビリ



〔平成22年度開始〕

海部地域には、「療養型の病床」が皆無だったことから、海部病院では10年前から末期がん患者 等への「訪問看護」 (医療保険) を開始し、在宅医療を推進している。 海部郡は地形が細長く、訪問までの往復に時間を要するケースもあり、全地域をカバーすること

は、マンパワーの面から厳しく、ここ数年は横ばいで推移している。





平成30年7月17日

在宅療養連携推進協定の締結

海部郡医師会・徳島県看護協会・海部病院との連携による在宅医療の推進

海部地域の関係機関が連携して、 地域における質の高い 在宅医療・訪問看護提供体制の構築を 総力を挙げて推進

在宅看取りの推進

平成30年8月1日

連携型の「在宅療養支援病院・診療所」

<施設基準上の連携施設>

德島県立海部病院

ヒワサクリニック 大里医院

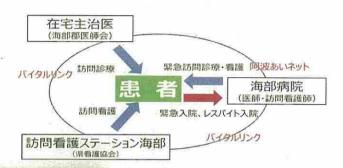
連携施設の訪問診療・訪問看護 を緊急時にパックアップ

折野胃腸科内科

訪問看護ステーション海部

<その他の連携施設> 牟岐駅前クリニック イワキ医院

(令和元年10月1日現在)





<実績>(平成30年8月~令和元年9月)

連携患者数

24名 20名

他医療機関からの紹介 ・海部病院からの逆紹介

4名

更なる連携医療機関の拡大を目指す

地域医療構想への対応

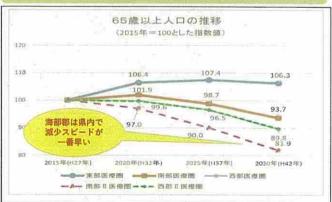
(南部構想区域)

「2025年」に必要とする病床数



資料:平成28年度第1回調整会議配付資料

海部郡の人口推移見込み



資料:国立社会保障・人口問題研究所データ

海部郡(南部 II 医療圏)は、2025年にかけ、より早い人口減少(6 5歳以上人口の10.0%の減少が見込)が予想され、地域の医療環境を 見据えた対応を図る必要がある。

海部病院は、引き続き急性期機能を担うとともに、急性期機能の一部 を転換し、南部 II 医療圏で不足することが予想される回復期機能を併せ 持つ必要があると考えられる。

人口減少が進行する中、地域の医療ニーズに対応することで、患者の確保と効果的な病院運営を目指す

「地域医療構想」に基づき県南部で不足する「回復期機能病床」へ転換

令和元年7月

地域包括ケア病棟の導入

地域包括ケア病棟とは

急性期治療を終えた後、経過観察が必要な場合や、在宅復帰に向けたリハビリが必要な患者さんが、住み慣れた在宅や施設で長く生活する事を応援する病棟



- ・高齢者の増加により、内科的な疾患で入院治療を行った多くの患者についても、 「在宅復帰」に向けて、リハビリの必要なケースが増加
- ・整形外科の大腿骨頚部骨折等の術後患者は、長期間のリハビリが必要
- ・高度急性期病院で脳神経外科等の手術後の患者について、これまで海部病院では リハビリ目的の受け入れは困難で、徳島・小松島等の遠方の回復期病床を有する病 院への転院を余儀なくされていた

2病棟のうちの | 病棟について、これまでの急性期病床から 地域包括ケア病棟(回復期病床)としての運用が得策

平成29年2月 一般病棟内に地域包括ケア病床(10床)を導入 ※ 病床利用率が常時80%以上

令和元年7月 4階病棟(52床)を「地域包括ケア病棟」として運用開始

年間約1億円の増収の見込み

地域包括ケア病棟の導入により救急医療・急性期医療から回復期医療までをカバーし、在宅復帰を目指す体制へ

地域の医療ニーズへの対応より、入院患者の増加による健全な病院の運営へ

6 ICTを活用した遠隔診療

徳島県立海部病院遠隔診療支援システム "k-support"

(平成25年2月開始)



当直医師が画像を 送信しコンサルト 治療方針を決定



搬送時に画像転送高度医療の事前準備目的で搬送時に画像を転送



「当直医師の精神的負担軽減」と「質の高い医療の提供」を両立

ICTの活用により、少ない常勤医師で「断らない救急医療」を実践

遠隔糖尿病外来

県内初

(平成30年12月開始)

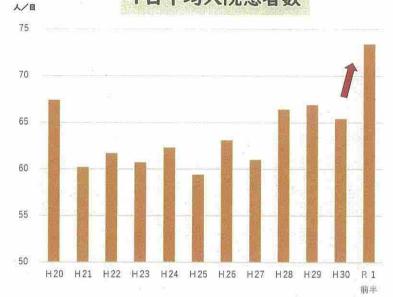
連携された電子カルテ・テレビ会議システムで「県中-海部間」で遠隔 診療を実施(糖尿病外来 月1回)



7 患者数の推移

入院

1日平均入院患者数



<令和元年度4~9月入院実績>

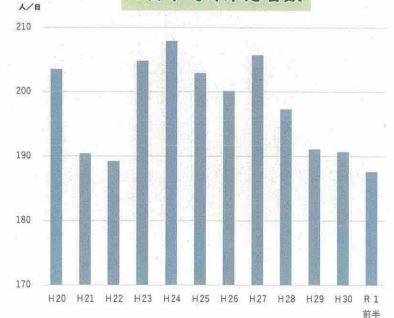
入院患者延数 (前年比) 内科 6,937名 (△203名) 外科 △17名) 4名 整形外科 5,081名 (+1,704名) 1,412名 脳神経外科 (+490名) 產婦人科 6名 △5名) 13,440名 (+1,969名)

I 日平均入院患者数 73.4名 病床利用率 66.7%

患者数は過去10年間で最高を推移 内科:常勤医師の減少で患者数は約3%減少 整形外科・脳神経外科:地域包括ケア病棟の導入、 リハビリ職員の増加で患者数が増加

外来

1日平均外来患者数



<令和元年度4~9月外来実績>

外来患者延数 (前年比) 内科 10,161名 △580名) 外科 3,888名 +383名) 4,103名 整形外科 △716名) 脳神経外科 2,275名 △58名) 產婦人科 803名 △80名) 耳鼻咽喉科 1,233名 △140名) 小児科 231名 △73名) 計 22,694名 (△1,264名)

1日平均外来患者数 187.6名

過疎化(既に65歳以上の人口も減少)及び医師 不足により、患者数が減少傾向



